

# 2016年度 SIP-adus 施策概要

施策名	自動走行システムの実現に向けた諸課題とその解決の方向性に関する 調査・検討における 歩行者移動支援システムの共通基盤研究に係る調査
担当組織	日立製作所・ナビタイムジャパン・ゼンリン コンソーシアム

研究代表者名 宮内 健裕

## プロジェクトの目標、背景

高齢者や障がい者等の交通制約者を含むすべての人に対して安全・安心で優しい交通社会を実現するために、公共交通へのアクセス性が向上する歩行者移動支援システムを構築する。歩行者と周囲の自動走行車両の動的な位置情報等をサイバー空間上で融合し、注意喚起を促すことで、交通事故低減につなげる。

## プロジェクトの概要

本業務では、以下の項目について調査・検討・評価を行った。

### ① 必要となる情報の調査及び活用方法の検討・評価

歩行者移動支援システムにおいて必要となる情報を抽出し、ART計画路線周辺である新橋～汐留～豊洲ルートにて実データを作成した。また、共通基盤データ評価用アプリとして、作成した実データを実装したパーソナルナビを試作した。このパーソナルナビを用いて実地検証を行い、必要情報の過不足の確認とあわせて、パーソナルナビの有効性・受容性を検討した。さらに、ダイナミックマップとの連携方法について調査を実施し、ダイナミックマップ情報の有効活用を検討した。

### ② 情報の収集・管理・提供方法に関する検討・評価

共通基盤データ収集方法として、GPSを活用したデータ収集アプリを設計・開発・試作し、テストデータを作成した。また、必要情報の投稿アプリを設計・試作し、ダミーデータが作成できることを確認した。さらに、地図事業者からアプリ作成民間事業者への共通基盤データ提供方法を検討、来年度以降の課題を抽出した。総務省SIPプロジェクトと連携し、高度位置精度技術や危険判定方式技術など、歩行者移動支援システムでの活用方法を調査・検討し、来年度からの大規模実証実験に向けた歩行者端末としての活用を検討した。

### ③ PICS連携に関する方式・仕様検討

警察庁SIPプロジェクトと連携し、PICS連携に必要な情報の内容・連携方法を調査・検討した。さらにPICSと通信を行うPICS端末とパーソナルナビとの連携のための仕様を検討した。

### ④ 受容性の検討・評価

江東区UDまちづくりワークショップに参加、交通制約者の幅広い意見を集めパーソナルナビ試作に活かすとともに、パーソナルナビの受容性を調査した。

また、国立障害者リハビリテーションセンター学院と連携、専門家を通じて歩行者移動支援システムが普及・利用するための施策を検討した。さらに、利用者の安全に対する自律意識向上や、住民の相互に助け合う意識の醸成を促進させる方法や仕組み作りを検討した。

## 今後の課題

来年度以降の大規模実証実験、さらには歩行者移動支援システムの実現に向けて、引き続き歩行者移動支援システムの検討・評価が必要であると考えられる。以下に、課題の一例を挙げる。

1. 必要情報の短期間・低コストでの収集方法の検討  
・データ収集アプリ、投稿データ収集アプリ を活用した必要情報収集の実証実験
2. 収集データの情報センター(仮)への提供方法の検討
3. 紐付けるユーザ特性の分類方法の検討
4. パーソナルナビの改善